高等部　国語科 授業づくりの考え方

発表者：播磨久美子

授業づくりの工程

- 前題材までに到達している実態を把握
- 子どもに望む姿を想定
- 指導内容の決定（研究生産物を基に）
- 学習指導要領の指導内容から段階を決定
- **題材目標の決定**
- 教材の設定
- 題材設定の立場記述
- **題材計画構想**
- 授業構想シートを活用
- **本時案作成**
- 題材開始
- R研で毎時間の授業の評価・改善
- 題材終了
- 観点別評価の実施

題材目標の決定：学習指導要領の内容から三つの柱の題材目標を決定する経緯と整合性の根拠

題材計画構想：知識及び技能と思考力・判断力・表現力等のそれぞれの内容の高まりやつながりについて

本時案作成：三つの柱の目標を達成するための働きかけや工夫

実践事例

指導内容：【領域】書くこと　中学部Ⅰ段階　知・技イ（ア）　思・判・表イ　学びウ

教材と仕組み：「文の並べ替え」で、文や文章の内容から順序を考えて構成し、始め・中・終わりの構成で文をまとめよう

題材目標（対象生徒：K）

知識及び技能	教師が例示した3文を始め・中・終わりの構成に並べ替えるとき、各文の内容やつながりがわかり、文や文章の内容が伝わりやすい構成になるように並べ替える。
思考力・判断力・表現力	提示した題目について文章を書くとき、自分がメモ書きした書きたい内容のそれぞれが「始め・中・終わり」のどこに当てはまるかを判断し、始め・中・終わりの構成で文章を書く。
学びに向かう力	言葉がもつよさに気づき、考えたり伝え合ったりしようとしている。

評価（対象生徒：K）

知識及び技能	【始め】・・出来事や書く内容の主題、【中】・・感想や理由、【終わり】・・まとめ、今後の抱負という視点をもとにして文や文章をそれぞれに振り分け、文章の内容が伝わりやすい構成になるように並べ替えることができた。
思考力・判断力・表現力	自分が書きたい内容が【始め】【中】【終わり】のどこに適しているかを判断してワークシートに記入し、「始め・中・終わり」の構成で文章を書くことができた。
学びに向かう力	友だちの文と自分の文の違いを発表したり、友だちが書いた文の構成について考えたりすることができた。

ポイント　題材目標を決定するまでの経緯

できることと、できるようになってほしいことの整理

できること	・伝えたい事はたくさんある！ ・思いついたことを、どんどん書ける！
できるようになってほしいこと	・文にまとまりがなく、何を伝えたいのかわからないので、もっと読み手にわかりやすい文を書いてほしい。

➡学習指導要領に準じたチェックリストで到達状況をチェック

〇中１段階　思・判・表の「書く」はすべて△

☆文の「まとまり」を意識して書くことを身につけてほしい。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力
事柄の順序等、情報と情報の関係について理解すること	相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること

ポイント　習得した知識を活用するための学習活動

【知識及び技能】

・相手が読み取りやすい文章を書くために、「始め・中・終わり」のそれぞれに書くべき内容を整理する活動を取り入れた。

【思考力・判断力・表現力】

・知識として得た「始め・中・終わり」の考え方をもとにして、自分が伝えたい内容をわかりやすく伝えるための構成を考えて文章を書いたり、習得した知識が深まるように、友だちの文と自分の文の構成を比べたりする活動を設定した。

ポイント　正解は、自分で決める。理由が大切！

・文を並べ替える活動では、文の内容やそれぞれのつながりに目が向くように、始め・中・終わりの判断がつき易いもの（３文）から徐々に判断しにくいもの（４～５文）になるように課題を配列した。始め・中・終わりの構成が判断しにくい文については、伝えたいことや文のつながりを意識して並び替えに取り組むことができるように、文の構成によって伝わる印象が変わることを例を挙げて示し、活動に取り組んだ。

主体的で対話的で深い学びの実現に向けた工夫

ポイント　友だちと対話することによる高まり

自分が構成した文章と、そうした理由をお互いに発表し合う時間を設けることで、わかりやすく伝えるための「始め」「中」「終わり」それぞれの文や文章のつながりと構成について考えを深めることができた。

ポイント　お互いに評価し合う

より構成に着目できるように、友だちの発表を聞いて〇・△のカードを提示する活動を設定することで、「始め・中・終わり」の構成について思考する場面が増えた。

気づき・改善　など

成果と考察

・文を並べ替える活動では、友だちの発表を聞いたり、自分が並べ替えた理由を発表したりする中で、自分が考えた構成以外のものでもわかりやすく伝えるための構成になることを学習することができた。「始め・中・終わり」の構成が、自分が伝えたいことをわかりやすく伝えるための一つの手段と解釈することで、書く文章の構成が型にはまったものにならず、そのときに応じた構成で文章を書くようになった。

改善すべき点

・生徒同士での学習評価については、友だちの発表を聞き取るだけでは内容の理解が難しかった。そこで、今回は発表内容を板書し、可視化して評価したが、生徒が自分で評価できる手立てとして「始め・中・終わり」や話の内容をすぐに手元で確認できるためのチェックシートが必要と感じた。

・授業でできるようになったことを生活に生かすために、係活動や日記など、日々の取り組みの中に同様の活動を設定する必要があると感じた。

高等部　　国語科 授業づくりの考え方

発表者：徳脇 朋子

授業づくりの工程

- 前題材までに到達している実態を把握
- 子どもに望む姿を想定
- 指導内容の決定（研究生産物を基に）
- 学習指導要領の指導内容から段階を決定
- **題材目標の決定**
  - 学習指導要領の内容から三つの柱の題材目標を決定する経緯と整合性の根拠
- 教材の設定
- 題材設定の立場記述
- **題材計画構想**
  - 知識及び技能と思考力・判断力・表現力等のそれぞれの内容や高まりやつながりについて
- 授業構想シートを活用
- **本時案作成**
  - するための働きかけや工夫三つの柱の目標を達成
- 題材開始
- R研で毎時間の授業の評価・改善
- 題材終了
- 観点別評価の実施

実践事例

指導内容：【領域】読むこと　小学部3段階ア（エ）
言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。
教材：『依頼された仕事をしよう』
仕組み：作業手順書に書いてある文から位置や形、状態や数の視点を読み取り、手順通りに作業する。
作業後に、自分で見本を見ることで作業手順書を正しく読み取って作業をすることができたか確かめる。

	題材目標	評価
知・技	作業手順書に示してある文に含まれている視点をまとめるとき、位置や形、状態や数の視点と、それらに含まれることばの意味とのつながりがわかり、それぞれの視点シートに視点に含まれることばを書く。	作業手順書に書かれたそれぞれの視点に含まれることば（右側、左上→□、学年分→□など）を該当する視点シートに（位置、数など）に書いてまとめることができた。
思・判・表	作業手順書を読むとき、文中から位置や形、状態、数の視点に含まれることばを読み取り、作業手順に沿って仕事をする。	それぞれの視点に含まれることばを読み取って、指定された位置に付箋を貼ったり、クリップをとめたり、頼まれた数のプリントを取ったりして作業することができた。
学び	自分が行動するために、いろいろなことばを知ろうとする。	見本と自分が作業したものを見比べて、読めていなかったことばの意味を確かめながら取り組む姿が見られた。

ポイント　卒業後の生活につながる指導内容の決定

○卒業後、簡単な掲示やメモを見たり、指示を聞いたりして仕事に取り組むことが想定される。そこで、簡単な作業手順書を読んで、仕事のイメージをもって取り組んでほしいと考えた。
○生徒の習熟度と卒業までの年数（2年）を考慮し、視点を増やしていくことよりも、ことばの意味を理解し、既習の視点に含まれる語彙を増やすことで、卒業後の生活に必要な力を身につけることができると考え、題材目標を決定した。

ポイント　視点に含まれることばを確実に身につけるための段階的な課題の配列

一次	二次		三次
1	2・3	4・5	6
	位置（右側、左上など）、向き（上向きなど）に含まれることば	数（□部、3学年分など）に含まれることば	新たに学習した位置と数に含まれることばと既習済みのことば

はじめに作業手順書を読んだ後、既習済みの視点とことばを聞いて確かめるようにした。次に、既習の（位置、数、色、場所など）視点のことばの定着を図りながら、位置、数の視点に含まれる新たなことばを段階的に増やしていき、作業手順書に書かれた視点とことばを読み取れるようにしていった。

ポイント　視点とことばを読み取ることができるようにするための課題の出し方

○同じ作業で読み取る視点のことばを変えるようにしたり、取り組む作業を変えて視点とことばを読み取るようにしたり、文中に複数の視点とことばを入れるようにし、視点とことばを読み取るようにした。

1	名簿で小学部のクラス人数を調べる
2	ピンクの付せんにクラスと人数を書く

→

1	名簿で高等部の学年人数を調べる
2	青の付せんに学年と人数を書く

1	谷折りにしたパンフレットを開く
2	開いたパンフレットの右端にそろえて～

1	学年人数分「■■」のチラシを取る
2	チラシの左上をクリップでとめ、右上に学年と人数を書いた付せんをはる

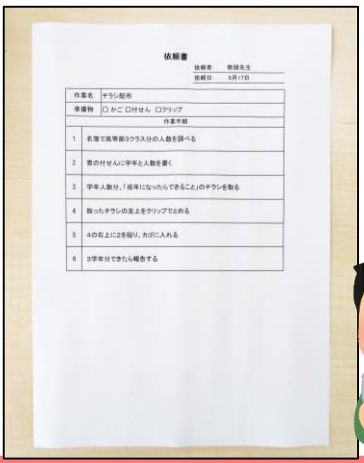
主体的で対話的で深い学びの実現に向けた工夫

ポイント　一人で続けて課題に取り組むための場面設定の工夫

○次々と課題に取り組めるように作業に必要な材料や道具を置く場所を固定した。
○依頼された仕事が終わったら、仕事確認場所に行き、見本と作業したものを見比べて、作業手順書通りに仕事ができたかを自分で確かめるようにした。

ポイント　既習内容を活用する課題設定

○作業手順書通りに仕事をするためには、新たに学習したことばだけでなく、既習した内容と関連づけたり、それらを活用したりする課題を設定した。



気づき・改善 など

・見本を見て自分で正誤判断をすることで、違ったときに、自分から作業手順書を読み直したり、「左上、位置が違った」と間違えた部分を具体的に確かめたりする、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
・読み取れるようになった視点とことばを生活の中で活用できるようにするために、様々な作業を準備したり、生活の中で意図的に場面を設けたりする必要があった。
・友だち同士で依頼された仕事通りにできているか確かめ合うことで、より視点とことばの定着を図ることができると考えられるため、友だちと作業手順書に書かれた視点やことばを確かめる活動を多く設定する必要があった。